

【耳鼻咽喉科】

1 研修目標

(1) 一般目標

耳鼻咽喉科学は、聴覚、平衡覚、嗅覚、味覚、呼吸、発音、構音、発声、咀嚼、嚥下など生命維持やコミュニケーションにとって重要な機能が集まっている領域を担当する。QOL改善に直結する疾患(めまい、難聴、花粉症、睡眠時無呼吸等)から生命予後を左右する頭頸部癌まで扱う幅広い分野である。また、小児から高齢者まですべての年齢層が対症となる。このような耳鼻咽喉科領域特有の専門的な知識、技能を要する診療に加え、外科系研修としての基本的な手技および周術期全身管理を習得することを目標とする。

(2) 行動目標

- ① 耳鼻咽喉科領域の解剖、生理を理解する。外来患者の疾患の病態、および入院患者の治療法について理解する。耳鼻咽喉科領域の疾患は病名が決まって治療目的での入院がほとんどである。手術目的の入院であれば解剖の理解は必須である。
- ② 指導医が外来診療中に行う診察、処置の内容を理解する。
- ③ 指導医とともに入院患者を受け持ち、入院時診察の実施、病棟回診・術前の検討会を行う。入院患者本人、家族との十分なコミュニケーションをとり、信頼関係を構築する。
- ④ 手術の助手として外切開手術、顕微鏡手術、内視鏡手術など様々な手術を経験する。また、切開、縫合、結紮など基本的な外科手技や周術期の全身管理について学ぶ。
- ⑤ 急患としてしばしば遭遇する、めまい、鼻出血や急性上気道炎、気道緊急などの救急診療を行う。特に中枢性めまいを見落とさない、危険な咽頭痛の診断ができる、この2点に重点を置く。
- ⑥ 他科からの依頼頻度が高い、嚥下障害に対する嚥下内視鏡検査、長期挿管に対する気管切開術と術後の管理について専門家としての診療を学ぶ。
- ⑦ 睡眠時無呼吸に対してCPAP導入の適応、導入後の管理について学ぶ。

2 研修方略

(1) 研修期間

4週間

(2) 方法

行動目標	方法	場所	担当者
①②⑦	口頭試問	耳鼻科外来	指導医
③⑥	口頭試問	病棟	指導医
⑤	レポート	外来・急患室	指導医・救急医
④	レポート	手術室	指導医

(3) 週間スケジュール

月曜 午前中：一般外来 午後：補聴器外来、甲状腺エコー
火曜 午前中：一般外来 午後：手術 術後検討会
水曜 午前中：一般外来 午後：手術 症例検討会
木曜 午前中：一般外来 午後：手術 術後検討会
金曜 午前中：一般外来 午後：手術 術後検討会
病棟回診：毎日 時間は未定

3 研修責任者

耳鼻咽喉科 部長 下郡博明

4 研修指導医

耳鼻咽喉科 部長 下郡博明

5 評価

(1) 研修医は別掲の経験目標に従って自己の研修内容を記録し、手術症例の手術記録を作成、指導医に提出する。まためまい症例のケースレポートを作成、指導医に提出する。

(2) 到達目標、経験目標の達成状況を研修終了時に行う。
指導医は上記評価結果を総合し、当科研修終了の判定を行う。